

日本版CCRCのソフト面に関する考察

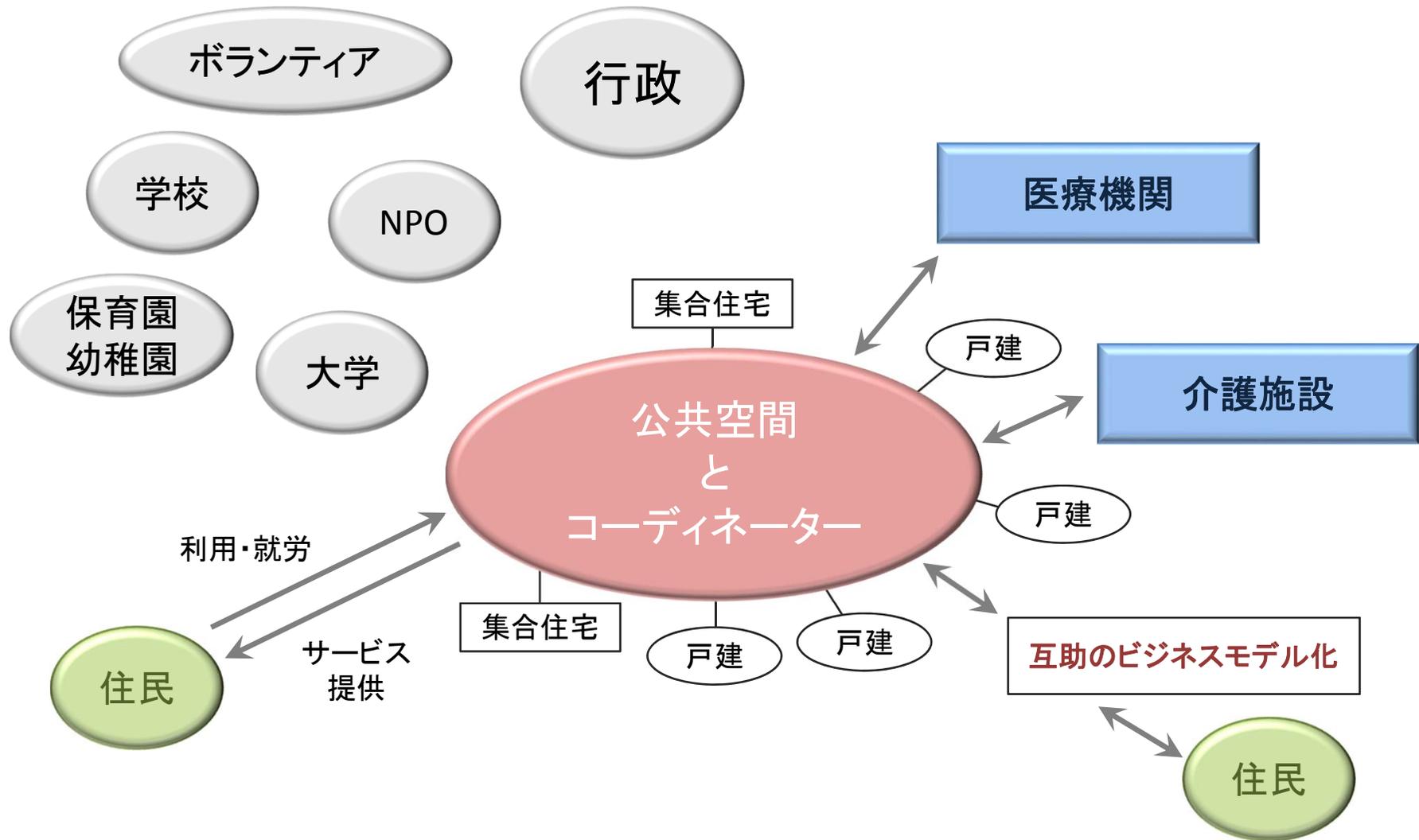
- 日本版CCRCの必要条件
- コーディネーターに期待される機能
- 健康長寿プランの作成とアセスメント
- 基本戦略のPDCAサイクル
- 日本版CCRCへの期待

東北大学大学院医学系研究科
公衆衛生学分野
辻 一郎

日本版CCRCの必要条件

- **ハード** = 私的な空間 (住まい)
公共の空間 (地域に開かれた活動拠点)
- **ソフト** = コーディネーター機能
- **健康づくり**、医療・介護サービス (**CC**)
- 地域社会との **交流・共働**

地域に開かれたCCRC



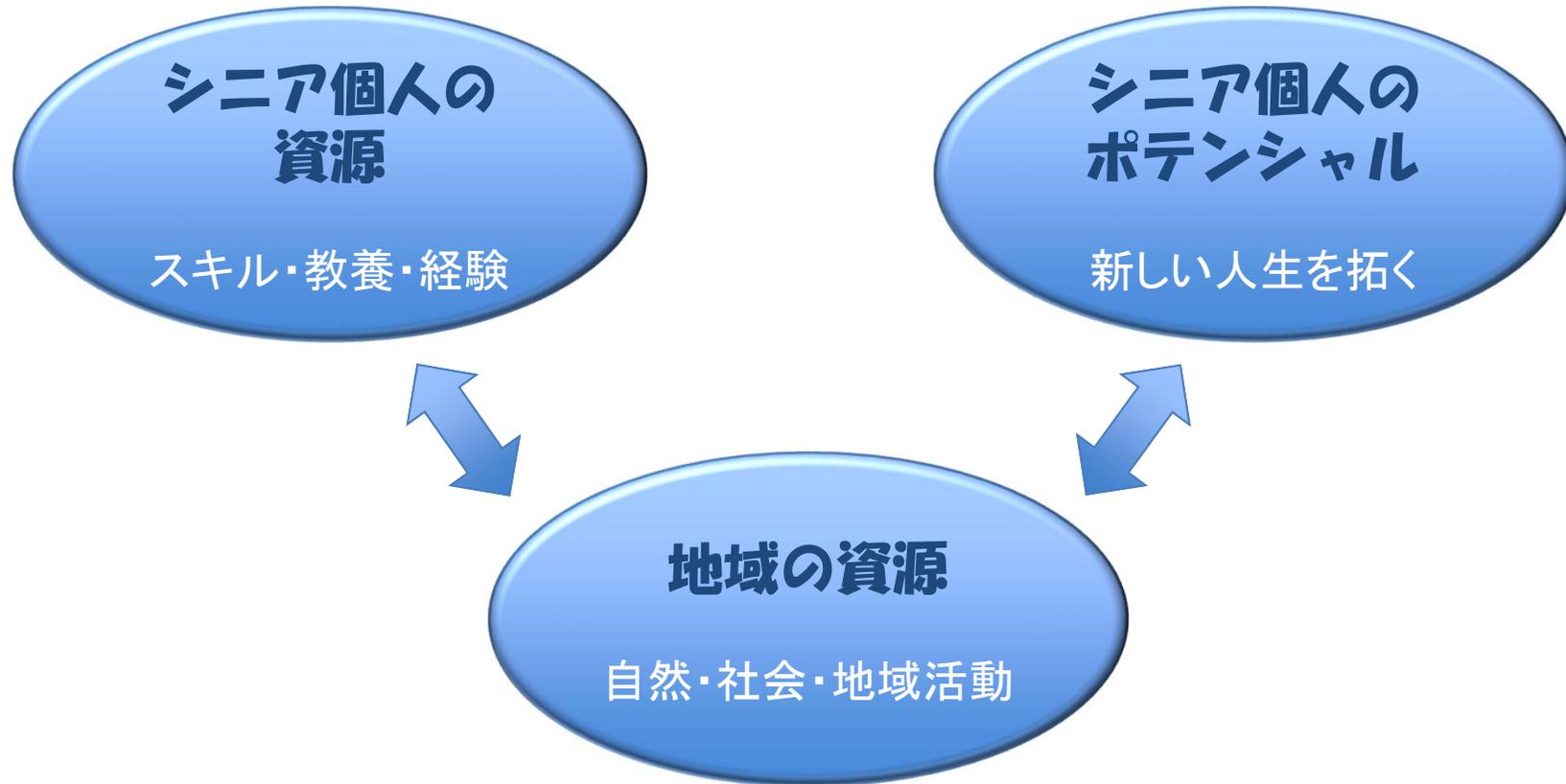
日本版CCRCにおける公共の空間

- 居住者がさまざまな活動を行う場を確保
趣味や学習の会、ゲーム、パーティなど
生きがい支援・介護予防など
- 食堂、温泉、店舗、農場、庭園、運動場など
就労の機会、交流の場
- 地域の人々が行ってみたいとなる場を作る
- 管理運営には居住者も積極的に参加（報酬あり）
- コーディネーターが常駐して、居住者を支援

コーディネーターに期待される機能

- 居住者の健康長寿プラン作成を支援、フォローアップ希望とマッチするサービス・活動プランを提案
- 地域資源の掘り起こし・ネットワーク化
足りないサービスや活動を地域で創り出す、働きかける
- CCRC全体の円滑で快適な運営
居住者の主体的参加を促進、人間関係を調整
- 地域社会との交流・共働
CCRCと地域とで、まちづくり協議会を設置
- 行政との連携、民間の医療・介護・福祉との連携

健康長寿プランの考え方



なりたい自分と、それを可能にする地域資源とのマッチング

プラン設計のポイント

- 生きがい・社会参加の視点で考えること
- 入居者の希望を引き出し、それを目標と計画につなげる
- 短期的な目標と長期的な目標：成功体験の積み重ね
- 目標はグタイテキニ（タニタの管理栄養士さんから聞いた話）
グ（具体的で）タ（達成可能で）イ（意欲を持って取り組めて）
テ（定量化されて）キ（期日を決めて）ニ（日課にできる）
- 入居者の希望するものが地域にない場合、共働により創出

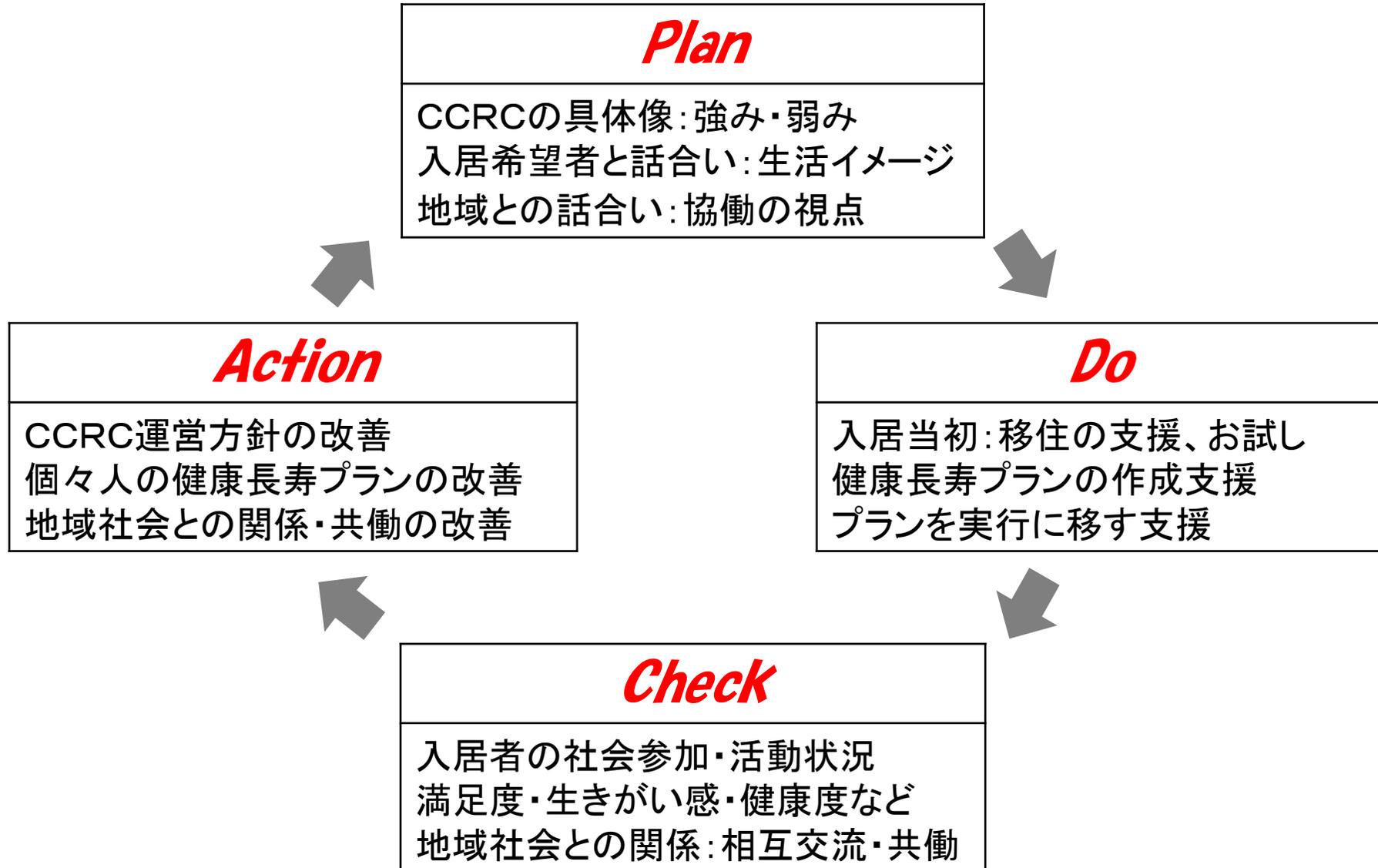
プランを定期的にチェックする仕組み

社会参加・活動：内容と頻度、目標との整合性
満足度、不満とその理由

健康状態：主観的な健康度、持病のコントロール状況
高齢者総合機能評価（CGA）、健診成績

生活上の満足な点・不満な点：CCRC内の生活
地域社会や住民との関係
目標達成を阻害する要因・促進する要因

基本戦略のPDCAサイクル



日本版CCRCへの期待

- それぞれの地域や設置者の状況に応じた多様なモデルを作ることにより、高齢者の多様性とCCRCの多様性とを個別にマッチングさせる
- 特徴(地域資源・コミュニティのタイプ・価格など)を明確にして、情報公開することにより、入居希望者の選択を支援する
- 入居者の選択が最も重要、それには医療・介護・終活に関することも含まれる(そのようなことも元気なうちから話し合っておくべき)
- 入居者は、同好活動をしながらか近くで暮らす仲間、老いの過程を支え合う仲間
- 空き家や廃校はCCRCの資源:地域社会のピンチをチャンスに変える
- 日本版CCRCは、入居者だけでなく地域の暮らしを支える存在:
地域再生のカギ